

自閉スペクトラム症(ASD)における 言語と共感機能



2022年 ハイブリッド東北大学×ZOOM

8月11日(木) - 12日(金)

東北大学片平キャンパス
片平さくらホール

2階大会議室 キャンパスマップの
E01

仙台市青葉区片平2-1-1



キャンパスマップ

自閉スペクトラム症(ASD)の特徴の一つは、言語の社会的運用に支障が生じることであり、それが当事者の生きづらさの要因ともなっています。

本シンポジウムでは、言語学、心理学、医学、神経科学等の研究者らがASDの言語使用、社会情緒的機能、知覚等の特徴に関する実証的知見について様々な話題を提供した上で、ASDの専門家や当事者の方々の談話を聴きます。

それらを通して、多様で混沌とした現代社会における、より望ましいコミュニケーションのあり方を考えたいと思います。

シンポジウムホームページ <http://skiyama.com/ASDling>



8/11(木・祝)10:00~18:10

10:00-10:10 開会挨拶:趣旨説明/木山幸子 東北大学文学研究科

10:10 session 1 ASDの言語使用—終助詞に注目する理由—
12:20 [司会]和田真 国リハ研究所

言語学を自閉症研究に繋ぐインターフェースとしての「共感獲得」

綿巻 徹 鎮西学院大学現代社会学部

ASDと終助詞使用の関係:コーパスデータ,産出実験,fMRI実験による検討

直江 大河 東北大学文学研究科・博士後期課程/国リハ研究所

鈴木 あすみ 東北大学文学研究科・博士後期課程/国リハ研究所

幕内 充 国リハ研究所

終助詞の音響的特性と自閉スペクトラム

那須川 訓也 東北学院大学文学部・宋 歌 東北大学文学研究科

木山 幸子 東北大学文学研究科

13:20 session 2 東アジア言語の文末詞

16:05 [司会]遠藤 喜雄 神田外語大学言語科学研究科

終助詞と共有知識管理

田窪 行則 国立国語研究所

終助詞、コミュニケーションとキャラクター

金水 敏 放送大学

韓国語における終結語尾の選択と発話意図

平 香織 神田外語大学外国語学部

16:20 session 3 共感的言語運用能力の習得・発達

18:00 [司会]那須川 訓也 東北学院大学文学部

日本語学習者の応答表現の運用

野田 尚史 日本大学文学部

第二言語習得における双方向言語活動の役割

鄭 嬌婷 東北大学国際文化研究科

高年層日本語母国語話者の文末表現と自閉症スペクトラム

木山 幸子 東北大学文学研究科

8/12(金)10:00~17:40

10:00 session 4 ASDの言語機能の言語学的検証
12:25 [司会]小泉 政利 東北大学文学研究科

話し手-聞き手句とコミットメント句における統語論とASD

宮川 繁 マサチューセッツ工科大学

自閉スペクトラム症における言語の周縁事象:問投詞とジェスチャーを中心に

川原 功司 名古屋外国語大学・石塚 祐香 作新学院大学・吉村 優子 金沢大学

ASDの言葉の問題をカートグラフィで捉える

遠藤 喜雄 神田外語大学言語科学研究科

13:25 session 5 共感と言語の神経基盤

15:25 [司会]木山 幸子 東北大学文学研究科

共感の認知神経メカニズムからみる自閉症スペクトラムの特性

梅田 聡 慶応義塾大学文学部

自閉スペクトラム症の感覚・認知特性と言語

岩淵 俊樹 浜松医科大学子どもこころの発達研究センター

脳における言語と社会認知の接点

幕内 充 国リハ研究所

15:40 session 6 ASD者のコミュニケーション:総合討論

17:30 [司会]幕内 充 国リハ研究所

ASD者の感覚の特徴とコミュニケーション

和田 真 国リハ研究所

ASD当事者の聴覚過敏性の解明と問題の緩和に向けた機械学習技術による

アプローチ

市川 樹 国リハ研究所

全体の発表へのコメントとNPO活動の紹介

片岡 聡 NPO法人リトルプロフェッサーズ

書籍紹介 ひつじ書房 自閉スペクトラム症と言語の問題

17:30-17:40 閉会挨拶/幕内 充 国リハ研究所

主催:科学研究費(基盤A)「文末助詞の階層における情動計算不全としての自閉症の言語障害」

共催:東北大学大学院文学研究科、国立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能障害研究室、科学研究費(基盤S)「OS言語からみた「言語の語順」と「思考の順序」に関するフィールド認知脳科学的研究」

【お問い合わせ】木山幸子(東北大学文学研究科言語学研究室) skiyama@tohoku.ac.jp

参加申込は
こちら

・参加費無料
・右記より事前のお申し込みを
お願いいたします。

参加申込フォーム



科研費
KAKENHI

自閉スペクトラム症(ASD)における言語と共感機能 2022 8/11~12

10:00-10:10 [開会挨拶・趣旨説明] 木山 幸子 (東北大学文学研究科・准教授)

8/11(木・祝)

session
1

ASDの言語使用-終助詞に注目する理由- [司会] 和田 真 (国リハ研究所発達障害研究室・室長)

10:10-11:00 ・言語学を自閉症研究に繋ぐインターフェースとしての「共感獲得」——綿巻 徹 (鎮西学院大学現代社会学部・教授)

11:00-11:40 ・ASDと終助詞使用の関係:コーパスデータ,産出実験,fMRI実験による検討
——直江 大河(東北大学文学研究科・博士後期課程/国リハ研究所・研究生)・鈴木 あすみ(東北大学文学研究科・博士後期課程/国リハ研究所・流動研究員)
・幕内 充 (国リハ研究所高次脳機能障害研究室・室長)

11:40-12:10 ・終助詞の音響的特性と自閉スペクトラム——那須川 訓也 (東北学院大学文学部・教授)・宋 歌 (東北大学文学研究科・博士後期課程)
・木山 幸子 (東北大学文学研究科・准教授)

12:10-12:20 ・ディスカッション

・お昼休み 12:20-13:20

session
2

東アジア言語の文末詞 [司会] 遠藤 喜雄 (神田外国語大学言語科学研究科・教授)

13:20-14:10 ・終助詞と共有知識管理——田窪 行則 (国立国語研究所・所長)

14:10-15:00 ・終助詞、コミュニケーションとキャラクター ——金水 敏 (放送大学大阪学習センター・所長)

・小休憩 15:00-15:05

15:05-15:55 ・韓国語における終結語尾の選択と発話意図——平 香織 (神田外国語大学外国語学部・教授)

15:55-16:05 ・ディスカッション

・休憩 16:05-16:20

session
3

共感的言語運用能力の習得・発達 [司会] 那須川 訓也 (東北学院大学文学部・教授)

16:20-17:10 ・日本語学習者の応答表現の運用——野田 尚史 (日本大学文理学部・教授)

17:10-17:30 ・第二言語習得における双方向言語活動の役割——鄭 嬌婷 (東北大学国際文化研究科・准教授)

17:30-17:50 ・高年層日本語母国語話者の文末表現と自閉症スペクトラム——木山 幸子 (東北大学文学研究科・准教授)

17:50-18:00 ・ディスカッション

8/12(金)

session
4

ASDの言語機能の言語学的検証 [司会] 小泉 政利 (東北大学文学研究科・教授)

10:00-10:50 ・話し手-聞き手句とコミットメント句における統語論とASD——宮川 繁 (マサチューセッツ工科大学・教授)

10:50-11:40 ・自閉スペクトラム症における言語の周縁事象:間投詞とジェスチャーを中心に
——川原 功司 (名古屋外国語大学外国語学部・准教授)・石塚 祐香 (作新学院大学・講師)・吉村 優子 (金沢大学人間社会研究域・准教授)

・小休憩 11:40-11:45

11:45-12:15 ・ASDの言葉の問題をカートグラフィーで捉える——遠藤 喜雄 (神田外国語大学言語科学研究科・教授)

12:15-12:25 ・ディスカッション

・お昼休み 12:25-13:25

session
5

共感と言語の神経基盤 [司会] 木山 幸子 (東北大学文学研究科・准教授)

13:25-14:15 ・共感の認知神経メカニズムからみる自閉症スペクトラムの特性——梅田 聡 (慶応義塾大学文学部・教授)

14:15-14:45 ・自閉スペクトラム症の感覚・認知特性と言語——岩渕 俊樹 (浜松医科大学子どものこころの発達研究センター・特任教授)

14:45-15:15 ・脳における言語と社会認知の接点——幕内 充 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所・高次脳機能障害研究室長)

15:15-15:25 ・ディスカッション

・休憩 15:25-15:40

session
6

ASD者のコミュニケーション:総合討論 [司会] 幕内 充 (国リハ研究所高次脳機能障害研究室・室長)

15:40-16:10 ・ASD者の感覚の特徴とコミュニケーション——和田 真 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所発達障害研究室・室長)

16:10-16:30 ・ASD当事者の聴覚過敏性の解明と問題の緩和に向けた機械学習技術によるアプローチ
——市川 樹 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所発達障害研究室・流動研究員)

16:30-17:00 ・全体の発表へのコメントとNPO活動の紹介——片岡 聡 (NPO法人リトルプロフェッサーズ・代表)

17:00-17:20 ・総合ディスカッション

17:20-17:30 [書籍デモ] ひつじ書房近刊『自閉スペクトラム症と言語の問題』——幕内・和田・Rizzi・遠藤・木山

17:30-17:40 [閉会挨拶] 幕内 充 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所高次脳機能障害研究室・室長)

シンポジウム
ホームページ

<http://skiyama.com/ASDling>



主催: 科研費「文末助詞の階層における情動計算不全としての自閉症の言語障害」

共催: 東北大学大学院文学研究科、国立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能障害研究室、
科研費「OS言語からみた「言語の語順」と「思考の順序」に関するフィールド認知脳科学的研究」

会場: 東北大学片平キャンパス さくらホール 仙台市青葉区片平2-1-1

【お問い合わせ】

木山幸子(東北大学文学研究科言語学研究室)
skiyama@tohoku.ac.jp

科研費
KAKENHI

